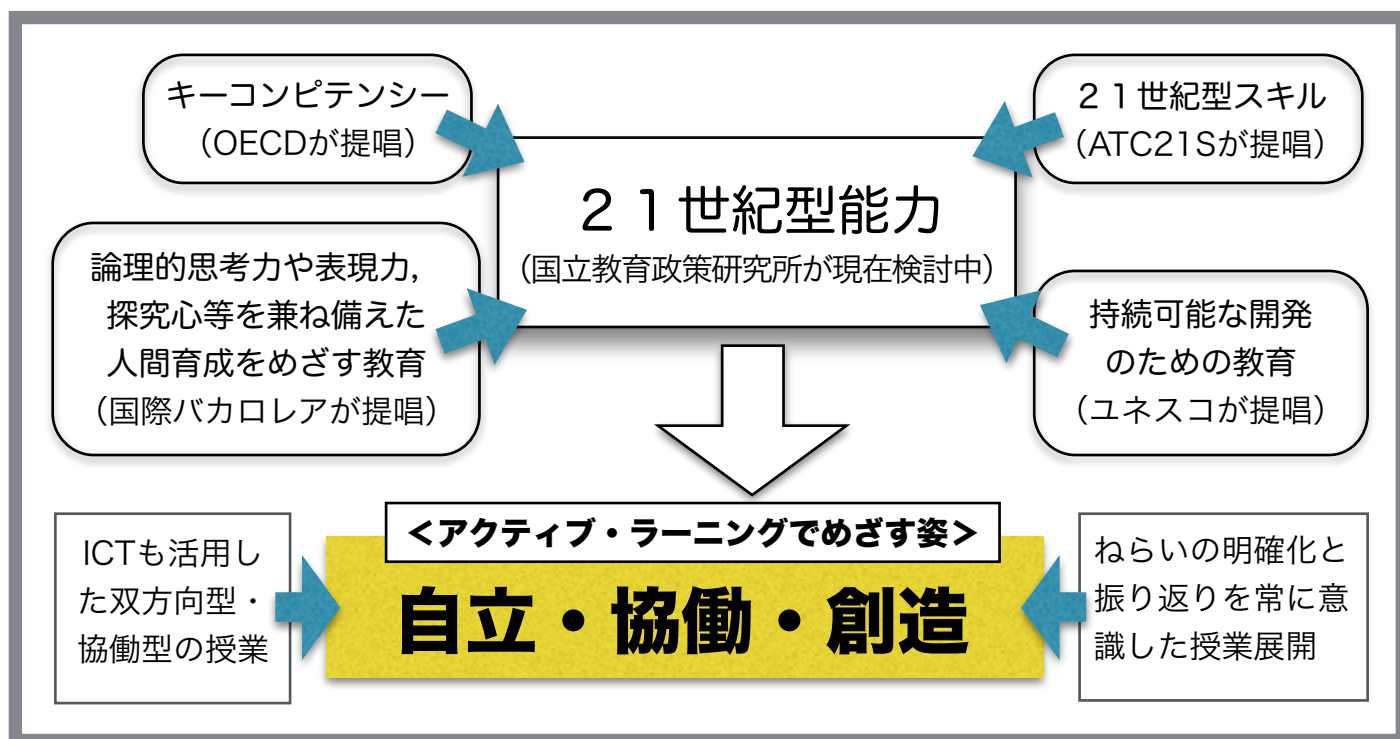


## これから求められる学習指導について⑦。

各教科・領域等の授業実践を振り返る中で。

これから求められる学習指導として「アクティブ・ラーニング」についてシリーズ化してまいりましたが、それに関連して今号では「21世紀型能力」について書きたいと思います。

「どのような授業がアクティブ・ラーニングなのか」を調べていくと、その学習指導・方法及び評価等については、現在、研究開発学校等における研究・調査等で具体化をめざしている段階ということでした。しかし、「アクティブ・ラーニングでどのような姿をめざしているのか」については、ある程度見えている部分がありましたので下図に整理してみました。



このような状況の中、塩見みづ枝先生（文科省初等中等教育局教育課程課長）は次のように述べておられます。

受け身ではなく、自分の頭でしっかりと考え、さらに他者との協働の中から新しい価値を創造していく力と態度を育てていくことが、初等教育の担うべき最も基本的な課題である。

「アクティブ・ラーニング」についてあれやこれやと書かせていただきましたが、そのキーワードである「**自立・協働・創造**」が子どもたちの姿に現れてくるような学習指導・方法について、今のうちからできることは意識していきたいと思いました。そうすると、単元（授業）構成は「**プログラム型**」から「**プロジェクト型**」への移行も必然的に迫られると個人的に考えます。今やるべきことである「言語活動の充実」にしっかり取り組みながら、5年後に迫る次期学習指導要領の完全実施に向かって、みんなで歩み始めていきましょう。